

自動車業界の未来を一緒に考えよう。大阪自動車青年会議所(柏原隆宏会長)は2日、大阪市天王寺区のとかつガーデンで大阪府自動車車体整備協同組合青年部(植林晃平会長)のメンバーを招き、自動車業界の将来を語り合う討論会を行った。自動車整備業界は整備士不足や事業承継問題など様々な課題に直面している。業界の若手経営者や後継者候補らが集まり、業界の現状や生き残り策について白熱した議論を繰り広げた。分解、車体両整備業界の青年組織が参加する討論会は全国でも珍しい試みだ。

自動車業界の未来 ともに考えよう

討論会は「私たちと自動車業界の未来を考えませんか? Go for it」と銘打ち、パネルディスカッションとグループディスカッション形式で行った。パネリストとして柏原会長(ロードカー)と植林会長(三國自動車)の両代表に加え、大自青から唐原健太郎氏(タック)、大車協青年部から樋谷秀明氏(樋谷自動車)の4人が登壇。コ―ディネーターは日刊自動車新聞社関西支社の山西晋支社長を務めた。会場には両団体から約40人が集まり、討論会を見守った。

大自青が大車協青年部招き

若手で議論白熱



大阪自動車青年会議所の柏原隆宏会長

社長は「入庫数も減少している」と指摘。衝突被害軽減ブレーキなど安全技術の進化によって自動車事故はますます減少していく見通しだが、「正直なところ対応策は見当たらない。入庫を確保するためにはパイを増やしていくしかない」と述べた。

「ぶつからない、壊れない車が増えていき、台当たりの整備単価減少は避けられない」と指摘。柏原会長は「お客様への信頼を勝ち取り生き残るしかない。厳しい言い方だが、その中で淘汰(とうた)されていくだろう」との見解を示した。唐原氏は「当社は取り扱っている車種を絞ることで他社との差別化を図っている」と自社への取り組みを紹介した。事業承継については、経営者側と後継者側とでそれぞれ忌憚(きたん)のない意見が交わされた。柏原会長からアライメントを求められた大自青OBの田中徳彦氏(タナカユ

現状の課題や生き残り策披露

キ社長は「渡す(事業を承継する)側が決断するタイミングはそれぞれ。ただ、受け取る側はバトンを後ろに回された時にすっと受け取る覚悟が必要」と自らの経験をもとに語った。

各業界の将来展望については両団体トップから厳しい意見が相次いだ。その上で柏原会長は「大自青に入会していれば問題ない、という風土を作っていく」と青年組織の存在意義を説いた。

両団体の参加者らは、今回の討論会を通じて整備業界の発展を望む強い意志は同じであることをそれぞれ確認した。分解・車体整備の両青年組織が交流を深めたことで、整備業界に新たな潮流が生まれそうだ。



大阪府自動車車体整備協同組合青年部の植林晃平会長

組織同士 交流深め新たな潮流を 初の試み



パネルディスカッション形式で意見を交わした